サン・カッシャーノ地区の特質からみたテアトロ・ミキエルと テアトロ・トロンの機能と実態について

STUDY ON THE CHARACTERISTICS OF THE PARISH OF SAN CASSIANO AND THE FUNCTIONS OF THE TEATRO MICHIEL AND THE TEATRO TRON

青木 香代子*

Kayoko AOKI

This is the second part of the study on two theaters for comedies built in 1581 in Venice and closed in 1586, by researching the manuscripts kept in the Archivio di Stato di Venezia. The purpose of this thesis is to clarify the forms and the function of these theaters, according to consideration of the characteristics on the parish of San Cassiano. In addition, the usage of the term "teatro" in documents are pointed out to reveal the position of two theaters in the theatrical history of Italian Renaissance.

Keywords: Italy, Venice, Teatro Michiel, Teatro Tron, the parish of San Cassiano

イタリア, ヴェネツィア, テアトロ・ミキエル, テアトロ・トロンの, サン・カッシャーノ地区

1. はじめに

本稿は、16 世紀後半、ヴェネツィアのサン・カッシャーノ地区に建設されたテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンの一連の研究の第 2 稿である。前稿では、劇場を所有した貴族に着目し、先行研究で使用されてきた一次史料の再精査を行った。さらに、ヴェネツィア国立古文書館において公証人文書や書簡等、個人的な内容が記される原史料を渉猟し、2つの劇場が君主や為政者の娯楽や権力の誇示のために建設された同時代の他都市の劇場とは異なり、貴族と役者が主体になり、有料上演によって収入を得ることをひとつの目的とした劇場であったということを明らかにした¹⁾。

2つの劇場はヴェネツィアにおいて最初に建設された常設の劇場であり、またイタリア全体の中でも、最初期に建設された例である。しかし、図面・絵画などの図像史料が現存しないことから、その様態を明確にすることは極めて困難である。また先行研究の多くでも、1582 年にフランチェスコ・サンソヴィーノが著した『高貴かつ唯一の都市ヴェネツィア』における記述²⁾に依拠し、巨額の資金を投じて建設された美しい劇場であったと認めているにすぎず、いまだ十分な論証がされているとは言えない³⁾。

筆者は2つの劇場の建設は、劇場が新しいビルディング・タイプとして社会に位置づけられる以前の現象であるがゆえに、当時の都市の社会や文化を映し出すものであると考えている。したがって本稿では、2つの劇場が共にサン・カッシャーノ地区に建設されたことに着目し、劇場の機能と形態に直接言及している一次史料の調査に加え、地区の特質から劇場の機能と実態を検証する。さらに、前稿で明らかにした2つの劇場の建設と上演が、同時期、他都市にみられる君主の威信を示す祝祭での上演とは異なり、役者が主導した上演であったことに重点を置く。そして、それに起因したテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンの機能と様態を考察する。

2. 位置

テアトロ・ミキエルの位置については、1582 年の十分の一税申告書 *Condizioni di Decima* に、*コルテ・ダ・カ・ミキエル* に存在したと記されている⁴⁾。現在はコルテ・デル・テアトロと呼ばれるこのコルテには、大運河に面した北東側の位置に、劇場を所有したミキエル家とは別の家の所有であったカ・ミキエルと呼ばれるパラッツォがある。また、コルテの南西側にはリオ・ディ・サン・カッシャーノに面した建物 (A)、北西側には奥行きが約 9m の建物が面している。北西側の建物はコルテに面するファサードに 12 世紀後半の典型的な様式のアーチが残っている⁵⁾。さらに約 9m の奥行きでは、当初 200 個のボックス席が計画されていたテアトロ・ミキエルの敷地としては小さすぎる。したがって、テアトロ・ミキエルは、約 21m×22.5m の大きさがある (A) の敷地に建設されたと考えることができる。

テアトロ・トロンの建設された位置に関しては、1582 年の十分の一税申告書には具体的な記述がなく⁶⁾、サン・カッシャーノ地区の聖堂の傍であったとする F.サンソヴィーノの記述が唯一の史料となる⁷⁾。しかし、18 世紀後半に行われたテアトロ・トロンの 2 度目の再建の際に、建築家フランチェスコ・ボニョーロによって作成された敷地の実測図等から、リオ・ディ・サン・カッシャーノとリオ・デッラ・マドンネッタに挟まれた一角 (B) に存在したと推測できる⁸⁾。

1582 年の前回にあたる 1567 年の申告書からは、ミキエル家がサン・カッシャーノ地区に賃貸している倉庫と住宅を所有していることがわかる⁹⁾。一方、トロロン家はサン・カッシャーノ地区に 70 ドゥカーティで貸している「極めて古く、傷んだ家」を所有していると記している¹⁰⁾。この記述はミキエル家、トロロン家共に 1567 年の十分の一税申告書に見られるサン・カッシャーノ地区の物件としては唯一のものである。また、同年に別の兄弟が作成した申告書の中にもサン・カッシャーノ地区の他の物件に関する記述はない。さらに、2

* 東京芸術大学大学院美術研究科 博士後期課程 建築専攻 修士(芸術)

Doctoral Course (Architecture), Graduate School of Fine Arts, Tokyo National University of Fine Arts and Music, M. Fine Arts.

図1 サン・カッシャーノ地区と劇場の位置

度の申告が行われた 1567 年から 1582 年の間に、サン・カッシャーノ地区における土地の売買・譲渡として両家に関わった記録が確認できるのは、A.ミキエルが、わずか 5 ピエディの土地を購入したことを記す文書が存在するのみである¹¹⁾。以上のことから、ミキエル家とトロン家は、劇場を建設するために新たに土地を入手したのではなく、1567 年の申告書を作成した際に既に所有していた場所に劇場を建設したと考えることができる。

3. サン・カッシャーノ地区について

2 つの劇場が建設されたサン・カッシャーノ地区は、サンタ・クロッチェ区の中に位置し¹²⁾、リアルトと呼ばれるヴェネツィアにおける交易と商業の中心地に近接する。そのため、商店 *bottega*、宿泊施設としての機能を兼ねたオステリア *osteria* と呼ばれる居酒屋の類、食堂 *taverna*、浴場 *stufa* 等が多く集まっていた¹³⁾。また、ヴェネツィアの中でも常に人口が集中した地区のひとつだったことが統計から明らかで、ヴェネツィア全体の人口が約 148,600 人だった 1586 年にはサン・カッシャーノ地区の人口は 2,838 人を数えた。また、人口密度では、ヴェネツィアの平均が 330 人/ha であるのに対し、サン・カッシャーノ地区では 1,144 人/ha であることからその密度の高さを指摘できる¹⁴⁾。

サン・カッシャーノ地区の 2 つの劇場では、淫らで不誠実な言葉の使用がみられるとされた上演内容に加え¹⁵⁾、劇場内で行われる行為が十人委員会 *Consiglio dei Dieci* において問題視され、上演が厳しく制限され続けた。同委員会の議事録等においてスカンダロ *scandalo* と表現されている劇場内での行為は、1586 年に十人委員会が劇場の閉鎖と解体を通達した際、その決定の要因のひとつとしても記されている¹⁶⁾。劇場内で起こっていたスカンダロが具体的に何を指したのかを明らかにするために、筆者は当時の犯罪等に関する多種の史料を調査したが、その内容を明確にする記述は見当たらなかった¹⁷⁾。したがって、劇場内でのスカンダロとは、こうした犯罪関係史料に記録されるような殺人、傷害あるいは窃盗事件などではなく、日常的

な騒ぎや醜事という程度のものであった可能性がある。

サン・カッシャーノ地区は、14 世紀半ばから 15 世紀にかけてカステレット *castelletto* と呼ばれる公営売春宿が設けられたサン・マッテオ地区に隣している¹⁸⁾。16 世紀末の娼婦の居住地を登録した史料からは、1514 年のリアルトの火災以降、サン・マッテオ地区周辺で活動していた娼婦が、若干の偏りはあるものの、都市内の広範な地区に移り住んだことがわかる¹⁹⁾。しかしその後も娼婦にとって、宿屋としての機能をもったオステリア等が重要な活動の場のひとつであり続けたことから、サン・カッシャーノ地区を含むリアルト周辺では特に活動が盛んに行われていたと考えられる²⁰⁾。2 つの劇場がコメディ・デッラルテの上演で人気のある劇団による喜劇上演のために建設された劇場であったことは前稿で明らかにしたが、ヴェネツィアでは 16 世紀初頭から、喜劇の上演を伴った貴族による祝祭に、娼婦が出入りしていたことが当時の文書に記されている²¹⁾。したがって、サン・カッシャーノ地区に建設された 2 つの劇場にも、リアルト周辺で活動していた娼婦が出入りしていた可能性があり、史料上に記されている劇場内で起こったスカンダロと呼ばれる騒ぎや醜事に関わっていたことは十分に考えられる。

4. 劇場の形態と特色

テアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンの形態について F.サンソヴィーノは、ひとつが楕円形、もうひとつが円形をした劇場であったとしている²²⁾。また聖職者アントニオ・ベルシオも同様に、巨額の資金を投じて建設された円形闘技場 *anfiteatro* の形態をした建物であると記している²³⁾ ²⁴⁾。1581 年 2 月に公証人フランチェスコ・モンドが作成した文書では、ジェロージ劇団の役者らが A.ミキエル兄弟に対して舞台背景 *scena* と 200 個のボックス席 *palco*、役者のための 4 件の住宅からなる喜劇上演のための場を建設することを求めている²⁵⁾。ボックス席の具体的な形態、数、構造等、建設後の様態を詳細に示す史料は発見されていないが、テアトロ・ミキエルが建設されたと考えられる約 21m×22.5m の敷地に対して、役者が要求した 200 個のボックス席というのは極めて多い。また 1582 年 1 月 24 日の日付で、劇場の建設主である A.ミキエルと大工フランチェスコ・ダ・セッラヴァッレの間でカッシャーノ地区のとある工事をめぐって訴訟が起きたことを示す文書が存在する²⁶⁾。この文書には、具体的に何の建設に関する訴訟なのかは記されていないが、同時期に A.ミキエルとその兄弟が建設に関わっていた記録は、サン・カッシャーノ地区のテアトロ・ミキエル以外に確認できない。従って、この文書がテアトロ・ミキエルの建設をめぐる訴訟であり、役者による注文どおりの劇場が実現しなかった可能性があると考えられる。

ボックス席の様態については、十人委員会の議事録における記述が唯一の史料となる。1583 年 1 月 5 日、1 月 14 日、1585 年 2 月 8 日、1586 年 1 月 14 日の記録から、後方にはおそらく通路があり、各ボックス席は扉のようなもので閉じることで通路から内部での行為が見えなくなる構造だったことがわかる²⁷⁾。同委員会から、劇場内でスカンダロが起こらないよう上演開始から全ての観客が退場するまでの間ボックス席の後方を開放し、内部での行為が見えるようにしておくよう度重ねて指示されていることから、劇場内でも特に扉を閉めることで個室となるボックス席の中で行われる行為が、都市の風紀を乱すとみなされていたに違いない。

ボックス席に関する記述は複数残されている一方で、舞台背景に関する記述は存在しない。劇場建設に先駆け、ジェロージ劇団の役者側から要求された内容が記されている F.モンドによる文書にも、「舞台 *scena* をつくること」と記述されているのみである²⁸⁾。そもそもコメディ・デッラルテの劇団は、旅回りで上演を行う劇団で、簡易な背景幕を携えて巡業し、仮設の舞台上で上演することが普通であった。1586 年 1 月 14 日に十人委員会から劇場の閉鎖と解体が言い渡された際にも、わずか 15 日以内に痕跡残さず全ての舞台 *scena* やボックス席を撤去することと指示されていることから、大がかりな器械装置や舞台は存在せず、簡素な背景や舞台によって上演された可能性がある。

表 1 は一次史料における 2 つの劇場に関する記述を一覧にしたものである。ここから 2 つの劇場については、一般的に劇場を表す“テアトロ” *teatro* という語よりも、多くの場合“喜劇を上演するための場所” *luogo per recitare commedie* と表現されていることが明らかとなる。この他にも多くの史料において、単純に“部屋” *stanza* や“ボックス席” *palco* という表現が使用されている。唯一、F.サンソヴィーノが“テアトロ”という語を使用しているが、これは人文学の素養をもった著述家だった彼自身によって出版された、ヴェネツィア案内書という外向きの書としての特質によるものと考えられる²⁹⁾。

15 世紀末以降のイタリアでは、ウィトルウィウスの『建築十書』をもとに古代の建築が研究・解釈され、そのひとつとして劇場 *teatro* も盛んに研究されてきた。また、祝祭や演劇が催される際には、パラッツォ内の広間、中庭等に一時的な舞台や観客席を設えてきたが、その中には理論家や建築家によって古代劇場の再現と専用劇場の実現を試みる例もあった。こうした実験的な空間に関する当時の文書では“テアトロ”と表現されることが多い一方で、ヴェネツィアのサン・カッシャーノ地区に建設された 2 つの劇場に関しては、表 1 に示すような別の表現が主に用いられている。このことから、2 つの劇場が時期としては他都市におけるルネサンス期の劇場研究の結実として専用劇場が誕生し始めた 1580 年代に建設されたものの、それとは異なる系譜にのるものと考えられる³⁰⁾。またそれは、サ

ン・カッシャーノ地区の 2 つの劇場が、人文主義者や建築家ではなく、役者によって建設と上演が主導され、興行収入を得ることをひとつの目的とした劇場であったことと関係があると筆者は推察する。

5. ロンドンの劇場から影響を受けた可能性

前稿では、サン・カッシャーノ地区の 2 つの劇場の建設に関して、役者が強い発言権をもっていたことを明らかにした。イタリアの人気役者ドルシアーノ・マルティネッリとトリスターノ・マルティネッリ兄弟³¹⁾は、当時所属していた劇団と共に 1577 年から 1578 年にかけてロンドンに滞在し、上演したことが知られている³²⁾。この時すでにロンドンには、イタリアに先駆けて 2 つの専用の劇場、ザ・シアターとザ・カーテンがあり³³⁾、マルティネッリ兄弟が率いた劇団がその劇場を目にした可能性は十分に考えられる。「古代ローマの形式になった木造の劇場で喜劇が上演されていた」と記されているロンドンの 2 つの劇場は、楕円形あるいは円形で、敷席と楽屋のような機能をもつ役者のための施設が隣接していたと考えられている。また、君主による劇場ではなく、所有者兼役者が有料上演によって運営する劇場であった³⁴⁾。この特徴はいずれも、ヴェネツィアのテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンにみられる特徴と共通することが指摘できる。

当時マルティネッリ兄弟が、どの劇団を率いてロンドンへ行ったかは明らかになっていない。しかし、ヴェネツィアでテアトロ・トロンが建設される直前の 1580 年には、コンフィデンティ劇団の一員だったことが知られている。また E.K.チェンバースは、マルティネッリ兄弟がロンドンに滞在した時期の前後にフランスでの上演が確認できるイタリアの劇団は、ジェロージ劇団のみであることに着目した。当時、イギリスへ渡るのにフランスを経由しなかったと考えるのは困難であることから、マルティネッリ兄弟と共にロンドンに滞在したのは、ジェロージ劇団であるとの見解を提示している³⁵⁾。また、ジェロージ劇団とコンフィデンティ劇団は同じ宮廷の祝祭で上演する機会もあって、相互で役者の移動が頻繁にみられるなど、緊密なつながりを持っていたことが知られている³⁶⁾。さらに、D.マルティネ

表1 テアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンを表現する語

史料名	日付	記述者	原文
Archivio Notarile, Atti, b.8317, cc.106v-107v.	1581.2.2	ジェロージ劇団の役者	... <u>uno luogo</u> de raggion del cl.mo ms.Alvise Michiel et fratelli del q.cl.mo Pierantonio posto in contrà de S.Cassan in corte da cha Michiel in calle di boteri, per recitar le loro comedie et,...
Consiglio dei Dieci, parti comuni, registro.36, c.9r.	1581.9.25	十人委員会	... che li sia stata fabricato più d' <u>un luogo</u> per recitare le loro inonestissime comedie...
D'Ancona, Origini del Teatro Italiano Vol.II, Roma, 1891, vol.II, p.452	1581.10.7	P.モーリ	... , nelli <u>palchi</u> di quelli <u>due loghi</u> fabricati ...
F.Sansovino, Venetia città nobilissima et singolare, Venezia, 1581, cc.75r.-v.	1581	F.サンソヴィーノ	... due <u>Teatri</u> bellissimi edificati, ...
Dieci Savi alle Decime in Rialto, condizioni di decima, Dorsoduro, b.172, fasc.1376	1582.3	ミキエル兄弟	<u>Un luogo</u> che fabricato già un anno per recitar comedie, ...
Dieci Savi alle Decime in Rialto, condizioni di decima, S.Marco, b.158, fasc.905	1582.3	トロン兄弟	in <u>luogo</u> da recitar le comedie...
Consiglio dei Dieci, parti comuni, registro.36, c.181r.	1583.1.14	十人委員会	...dal <u>luogo</u> dove si recitano.
Lettera di Francesco Andreini al duca Vincenzo Gonzaga	1583	F.アンドレイーニ (ジェロージ劇団の役者)	... , et in particolare della <u>stantia</u> di Venetia, ...
Consiglio dei Dieci, parti comuni, registro.38, c.81v.	1586.1.14	十人委員会	...nel <u>luogo</u> da loro fabricato far recitar comedie
Consiglio dei Dieci, parti comuni, registro.38, c.81v.	1586	十人委員会	... <u>luoghi</u> fatti fabricar da esse per recitar comedie ...
Consiglio dei Dieci, parti comuni, filza.161	1586	A.トロン	... , fabricar <u>un luogo</u> , da recitar comedie, ...
BNM., Ms., Marc., it., VII, 335(8232), c.38r.-v.	1607	A.ベルシオ(聖職者)	...Al tempo ch'io quivi dimoravo c'erano introdotte le comedie in modo, che per esse era stato fato <u>un' edificio</u> di gran spesa a guisa d'un anfiteatro ove si riduceva quasi tutta la nobiltà, ...
Archivio Notarile, Testamenti, b.1244, fasc.439	1616.7.1	G.B.ミキエル	...nel <u>luogo</u> della comedia a San Casan

ッリがマントヴァ公のグリエルモ・ゴンザーガに送った手紙には、ジェロージ劇団とコンフィデンティ劇団を「私達の劇団」と表現していることから³⁷⁾、マルティネッリ兄弟がコンフィデンティ劇団だけでなく、ジェロージ劇団にも関わっていたと考えることができる。

以上のことから、1577年から1578年の間にマルティネッリ兄弟と共にイギリスを訪れたジェロージ劇団あるいはコンフィデンティ劇団の役者が目にしたロンドンの劇場の様子が、サン・カッシャーノ地区の劇場建設に影響を与えた可能性があると言える。

6. まとめ

本稿ではヴェネツィアのテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンに関して、その形態と機能に直接言及している一次史料の精査に加え、2つの劇場が建設されたサン・カッシャーノ地区の特質から劇場の実態を検証した。さらに、劇場の建設と上演を役者が主導したという事実に着目し、劇場の形態に与えた影響を考察した。本稿が明らかにしたのは以下の点である。

1)ミキエル家、トロン家共に、劇場建設のために新たに土地を入手したのではなく、もともと所有していた土地に劇場を建設した。しかし、サン・カッシャーノ地区は商業の中心地であるリアルトに近く、商店、オステリア、食堂などが多く、常に人が集まることと、娯楽の活動が盛んであったことから、ミキエル家とトロン家が偶然ではなく、意図的にサン・カッシャーノ地区に劇場を建設した可能性が考えられること。

2)2つの劇場内の観客席は、後方の扉を閉めることによって完全な個室のようになるボックス席であり、そこではスカンダロと呼ばれる日常的な騒ぎや醜事が起きていた。また、その騒ぎにサン・カッシャーノ地区やその周辺のオステリア、公衆浴場等を活動の場としていた娯楽が関わっていたと推察できること。

3)F.サンソヴィーノはテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンについて、「巨額の資金を投資して建設された実に美しい2つの劇場」であったと記している。しかし実際には、簡単な背景幕を携えて旅回りをし、比較的つつましい空間で上演することが普通だった役者の主導で建設された2つの劇場は、固定された装置や背景をもたず、舞台は極めて簡素だった可能性があること。また、舞台よりもボックス席が重要な建築要素であったと考えられる。

以上から、十人委員会において度重ねて2つの劇場での上演不許可が出された要因のひとつに、ボックス席の中で行われていた行為が問題視されていたということが明らかとなる。またこのことは、貴族らが必ずしも2つの劇場に、観劇だけの目的で通ったのではないことを意味する。16世紀後半のヴェネツィアでは、それまで貴族個人のパラッツォの中で行われていた会合や集会に、リドット *ridotto* と呼ばれる集会場や遊技場として機能する空間が使用されるようになったが³⁸⁾、サン・カッシャーノ地区の2つの劇場におけるボックス席もリドットと同様に貴族の新しい社交の場として使用されていた可能性がある。ヴェネツィアでは17世紀に数多くの劇場が建設された。その重要な建築要素であったボックス席は、貴族や上層市民によって賃貸され、観劇のためだけでなく個人の密会や会合の場としても使用されていたことが明らかになっている。サン・カッシャーノ地区に建設された2つの劇場には、既にそのような17世紀から近代にかけての劇場の萌芽がみられたと推測できる。

また、テアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンは、15世紀末以降のイタリアで盛んに行われた劇場の研究と実験の結果として各地で建設された劇場とは、同時期にも関わらず出自が異なる可能性がある。コメディ・デッラルテは人文主義思想とも関わりがあったと考えられているが³⁹⁾、有料上演を行うことによって収入を得ることをひとつの目的としたジェロージ劇団、コンフィデンティ劇団の役者によって建設が導かれた2つの劇場は、どちらかというと広場に一時的な舞台を設え、仮設の観客席や周囲のパラッツォの中から観劇した野外での上演、獣いじめ *caccia* と呼ばれる牛や熊を犬に負わせる競技が行われたような、中世から直接引き継がれてきた見世物のための空間に類するものであったと考えられる。また、そこには当時既にロンドンに存在した劇場との類似点も確認できる⁴⁰⁾。

役者によって建設が牽引されたテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンは、ルネサンス期における学問研究の一環として、人文主義的素養をもった当代屈指の建築家によって、為政者や教養ある上層市民のために建設された同時期の他都市の劇場とはやや異なる系譜によるものであったと考えられる。しかし、それは単に中世的な後進性を示すものではなく、中世以来観劇のために設えられてきた桟敷が、壁などで仕切られたボックス席に変容し、入場料を支払う貴族や上層市民の個人的な娯楽や社交のための場として機能するようになる、17世紀の劇場に先駆ける姿をとっていたのである。

注

¹⁾ 拙稿「16世紀後半ヴェネツィアにおけるサン・カッシャーノ地区の劇場建設と上演について」、『日本建築学会建築論文報告集』、第617号、2007.7、pp.195-199.

²⁾ Sansovino, F., *Venetia città nobilissima et singolare, descritta in XII libri*, Venezia, 1581, cc.75r.-v.

³⁾ Mangini, N., *I Teatri di Venezia*, Venezia, 1974.; Mancini, F., et al., *I Teatri di Venezia*, tomo I, Venezia, 1996. 一方でE.J.ジョンソンは、F.サンソヴィーノが2つの劇場をサン・カッシャーノ地区で訪れるべきものとして記しているものの、17世紀以降に相次いで建設された劇場のように豪華な装飾が施されたのではないとの見解を示している。Johnson, E.J., *The short, lascivious lives of two venetian theaters: 1580-1585*, Renaissance Quarterly, vol.LV(2002), p.944.

⁴⁾ ASVe., *Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima*, San Marco, b.172, fasc.1376. A.ミキエル兄弟による申告。以下引用 [In S.Cassan; Un luogo fabricato gia un'anno per recitar comedie, le quali essendo state prohibite con le strettenze note ad ogn'uno, poca speranza si puo havere si trarne piu alcun utile, ...]; Mangini, N., *op.cit.*, p.22.

⁵⁾ Maretto, P., *La casa veneziana nella storia della città dalle origini all'ottocento*, Venezia, 1986, pp.66-70.

⁶⁾ ASVe., *Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima*, San Marco, b.158, fasc.905. E.トロンとA.トロンによる申告。

⁷⁾ Sansovino, F., *op.cit.* cc.75r.-v.

⁸⁾ ASVe., *Giudici del Piovego*, b.86., Mancini, F., et al., *op.cit.*, pp105-114.を参照。

⁹⁾ G.B.ミキエルによる申告。ASVe., *Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima*, San Marco, b.128, fasc.995, 以下引用 [Item; mi atrovo in contra di San Cassan, in corte da Ca' Michiel, uno magazen qual tien ad afito ser Zuanne da Logio et paga di fito ducati dodesse alano, et di piu mi atrovo aver a galder dal dito ser Zuanne ducati cento. Item; una certa posta in contra di San Cassan, in corte da Ca' Michiel del Tagliapietra, nela qual abita al presente dona Cecilia lavandera et paga ducati nove alano.]

¹⁰⁾ E.トロンとその兄弟による申告。ASVe., *Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima*, San Marco, b.127, fasc. 419. 以下引用 [Item mi trovi, ma casa in San Cassan, nella quali habita ms Domenego da Gaghiani per affitto di ducati settanta, la qual casa è tanto vecchia, et rovinata,]

¹¹⁾ ASVe., *Archivio Notarile, Atti*, b.7829, 32r.-33v.

¹²⁾ 現在の区分では、サン・カッシャーノ地区はサン・ポーロ区とサンタ・クローチェ区、2つの区にまたがっている。

¹³⁾ Gallicciolli, G.B., *Delle memorie venete antiche profane ed ecclesiastiche, libri tre*,

- tomo 5, Venezia, 1795., Concina, E., *Venezia nell'età moderna: struttura e funzioni*, Venezia, 1989.; Scarabello, G., *Le "Signore" della repubblica*, in Le Cortigiane di Venezia, catalogo di mostra, Venezia, 1990. 公衆浴場は外科治療などにも用いられたが、混浴のものも多く、悪評高いものであったと考えられている。
- ¹⁴⁾ この数値はジュデッカ区を除く 6 つの区を対象に算出。隣接するサンタ・マリア・マーテル・ドミニ地区、サンタポリナーレ地区、サン・シルヴェストロ地区等も極めて人口密度が高かった。Gallicciolli, G.B., *op.cit.*, p.135.; Beltrami, D., *Storia della popolazione di Venezia, dalla fine del secolo XVI alla caduta della repubblica*, Padova, 1954, pp.37-43.を参照。
- ¹⁵⁾ 喜劇上演は 1508 年以降常に監視されつづけてきた。ASVe., Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, registro.36, c.9r. 以下引用 [...], et però del 1508 a 29 di Dicembre prohibitero con questo consiglio il recitar di comedie, egloge, et cose simili, perche in esse venivano fatti atti, et dette parole lascive, et inhoneste....]; Biblioteca Nazionale Marciana, Ms. Marc., it., VII, 335 (8232), c.38 v. 以下引用 [...nobili che pagavano i comediani che dicesero le più grasse per non dire più sporche cose che mai sapessero, ...]
- ¹⁶⁾ ASVe, Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, filza.152, filza 161.にも記述がある。また、役者が十人委員会に送った劇場での上演許可を請う内容の手紙にも、劇場内でのスカンダロがおこらないよう、上演中はボックス席を開け放しておくことが約束されている。ASVe, Consiglio dei Dieci, Parti Comune, Filza b.158.; トスカーナの P.モリーも 2 つの劇場のボックス席の中でスカンダロを伴う悪辣な行いがされていることを記している。D'Ancona, A., *Origini del Teatro Italiano*, Vol.II, Torino, 1891, p.452.を参照。
- ¹⁷⁾ 劇場内での行為について、以下の史料を調査した。Avogadori di Comune, Raspe, rr.3684-3686.; Consigio dei Dieci, Parti Comuni, rr.34-41.; Consigio dei Dieci, Parti Comuni, filza, bb.139-161.; Capi Consiglio dei Dieci, Notatori, bb.24-28.; Signori di Notte, Capitoriale, bb.1-1bis.; Cinque Anziani alla Pace, bb.1-8.; Cassiere della Bolla Ducale, Grazie del Maggior Consiglio, r.5.
- ¹⁸⁾ 1460 年にはマリビエロ家が政府と契約を結びヴェネツィアで 2 番目の公営売春宿を設立。これは 16 世紀初頭まで存続した。カステッレットに住まう娼婦は、外出時間だけでなく、外出できる範囲、行動も厳しく定められ、監視されていた。Scarabello, G., *op.cit.*, pp.11-15.; Calza, C., *Documenti inediti sulla prostituzione, tratti dagli archivi della repubblica veneta*, Milano, 1869.
- ¹⁹⁾ この史料はコッレール美術館の図書室に保管されているが、そのコピーが以下の資料に所収されている。Lorenzi, B., *Leggi e memorie venete sulla prostituzione fino alla caduta della repubblica*, Venezia 1870.
- ²⁰⁾ オステリアの経営者にとっては、娼婦が出入りすることによって増える収益が、政府にとってもワインの売り上げによる税収は喜ばしいことであった。Scarabello, G., *op.cit.*, p.15.; 1580 年代のサン・カッシャーノ地区では、教区教会の聖職者らまでもが肉欲の罪で逮捕されている。また、テアトロ・トロンのすぐ傍には、乳房の橋、橋のたもとという名の橋があるが、G.タッシーニによると、これは 16 世紀、橋のたもとの窓辺に当時流行していた同性愛を矯正する目的で乳房を露出した売春婦らを窓辺に立たせたことに由来する。ヴェネツィアに残る地名の由来については Tassini, G., *Curiosità veneziane*, Venezia, 1990. (初版 1863 年)を参照。
- ²¹⁾ Sanudo, M., *Diarii*, XVIII, 265.; Padoan, G., *La commedia rinascimentale veneta*, Vicenza, 1982, p.60.; また、都市の中でも娼婦が多く集まるような地区で上演されることも多かった。Taviani, F., *L'ingresso della commedia dell'arte nella cultura del cinquecento*, in Il Teatro nel Rinascimento, a cura di Cruciani, F., et.al., Bologna, 1987, p.327.
- ²²⁾ Sansovino, F., *op.cit.*, cc.75r.-v.
- ²³⁾ Biblioteca Nazionale Marciana, Ms., Marc., it., VII, 355(8232), cc.38r.-v. 以下引用 [... Al tempo ch'io quivi dimoravo c'erano introdotte le comedie in modo, che per esse era stato fatto un'edificio di gran spesa a guisa d'un anfiteatro ove si riduceva quasi tutta la nobilità, ...] しかし、この記述は劇場が解体された後の 1607 年のものであることから、A.ベルシオが実際に劇場を見て記したのではなく、F.サンソヴィーノの記述を参照した可能性も考えられる。
- ²⁴⁾ F.マンチーニは 2 つの劇場が建設されたと考えられる土地の形状から、テアトロ・ミキエルが円形、テアトロ・トロンの楕円形であったと論じている。Mancini, F., et al., *op.cit.*
- ²⁵⁾ ASVe, Archivio Notarile, Atti, b.8317, cc.106v-107v., 以下引用 [...], il prefato cl.mo ms.Alvise Michiel fo del cl.mo Pieroantonio facendo per nome suo proprio et per nome delli altri suoi fratelli, da una parte, et ms. Symon Coduri bolognese q. ms. Filippo, ms. Terri ditto Horatio dalla Torre q.ms. Baldissera da Padoa, ms. Julio Pasquati da Padoa q. ms. Donado, et ms. Adriano Valerini da Verona q. ms. Andrea et compagni. nominati comici gelosi recitanti, dal'altra, sono devenuti all'infrascritta composition, et avendo con li patti, modi, condition infrascritte. Et prima, che prefato cl.mo ms. Alvise per nome suo et fratelli sia obligato nel soprascritto loco fabricar una scena con palchi numero dusento in circa et altre comodità si' de (...) como de altri adecamenti scenici che farano bisogno, (...), quatro stantie o quel piu che capita il luogo per comodità di essi recitanti a tute spese del prefato cl.mo ms. Alvise per li nomi soprascritti...]
- ²⁶⁾ ASVe, Archivio Notarile, Atti, b.8318, cc.35v-36v.
- ²⁷⁾ ASVe, Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, registro.36, c.180v, 以下引用. [... che siano stati tutti li palchi del luoco aperti dalla parte da diedo, et traversati con cantinelle in modo che ciascuno che passerà possi veder per dentro di essi palchi, ...] 同様の記述が以下にも確認できる。ASVe, Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, registro 36, c.181r.; registro 38, c.81r.; filza, b.158.
- ²⁸⁾ ASVe, Archivio Notarile, Atti, b.8317 cc.106v-107v.
- ²⁹⁾ F.サンソヴィーノについては以下を参照。Bonora, E., *ricerche su Francesco Sansovino: imprenditore librario e letterato*, Venezia, 1994.; Sforza, G., *Francesco Sansovino e le sue opere storiche*, Memorie della Reale Accademia delle Scienze di Torino, Torino, 1987, pp.27-66.
- ³⁰⁾ 同時期の例として、ヴィチエンツァのテアトロ・オリムピコ、フィレンツェのウフィツィ内の劇場、500 人広間における劇場、サッピオネータのテアトロ・オリムピコに関しては一般的にテアトロと表現されている。また 1565 年にコンパニーア・デッラ・カルツァのために A.パッラーディオによってヴェネツィアにつくられた一時的な劇場もテアトロと表現されている。ASVe, Senato Terra, filza 93.; Lucchesi, P., *I teatri di Firenze, origini, storia, spettacoli, aneddoti e curiosità dei teatri, esistenti o scomparsi, che dall'epoca romana fino ad oggi hanno animato la vita della città*, Roma, 1991.; Mazzoni, S., et.al., *Il teatro di Sabbioneta*, Firenze, 1985.; Mancini, F., *op.cit.*, pp.67-85.を参照。ただし、ヴェネツィアに限らず、喜劇上演が行われる空間を”部屋” stanza と表現する例は他にも確認できる。また、テアトロという語がどのような定義で用いられていたかについては、いまだ十分な議論がされていないため、これについては今後更に検討をしたい。Mancini, F., et al., *op.cit.*, p.88.; Ruffini, F., *Teatri prima del teatro*, Roma, 1983, pp.19-20.を参照。
- ³¹⁾ マントヴァ出身の役者。Enciclopedia dello spettacolo, fondata da Silvio D'Amico, vol. VII, Roma, 1975, pp.200-201.
- ³²⁾ Baschet, A., *Les comédiens italiens à la cour de France sous Charles IX, Henri III, Henri IV et Louis XIII*, Paris, 1882, p.80.; D'Ancona, A., *op.cit.*, Vol.II, Torino, 1891, p.479.; Lea, K.M., *Italian popular comedy, a study in the commedia dell'arte, 1560-1620, with special reference to the English stage*, vol.2, Oxford, 1934.
- ³³⁾ 役者兼劇場の経営者であった J.バーベッジによって 1576 年に建設された常設の劇場。ザ・シアターはその土地の所有者との争いが生じたため、1599 年に劇場の資材を用いて別の場所に再建される。この劇場がザ・グロープである。デ・ウィットによるスケッチが残っていることで知られるザ・スワンは 1595 年の建設である。このほかにも、エリザベス朝のロンドンには利益をあげていたと考えられている獣いじめのための施設があった。その形態や構造は不明な点が多いが、ヴェネツィア人 A.マーニョは「un loco rotondo circondato de palchi con li suoi coperti...」と記している。玉泉八州男『女王陛下の興行師たち』芸立出版, 1984.; Dawson, G.E., *London's bull-baiting and bear-baiting arena in 1562*, in Shakespeare Quarterly, XV(1964), New York.; Chambers, E.K., *The elizabethan stage*, vol.2, Oxford, 1923.
- ³⁴⁾ 聖職者 J.ストックウッドによる記述。Yates, F.A., *Theatre of the world*, London, 1969., 邦訳: F.イエイツ, 藤田実訳『世界劇場』晶文全書, 1976.; p.120.; Chambers, E.K., *op.cit.*; Wickham, G., *Early english stages 1300 to 1660*, vol.2, London, 1969.エリザベス朝のロンドンの劇場研究は比較的進んだ分野ではあるが、いまだ明らかにされていない部分も多い。
- ³⁵⁾ Chambers, E.K., *op.cit.*, p.260.
- ³⁶⁾ Richards, K., *The commedia dell'arte: a documentary history*, Oxford, 1990, pp.61-66.; Taviani, F., *Il segreto della commedia dell'arte: la memoria delle compagnie italiane*, Firenze, 1982.; Lea.K.M., *op.cit.*
- ³⁷⁾ D'Ancona, A., *op.cit.*, pp.477-479.
- ³⁸⁾ 当時リドットという言葉は貴族の集会所や遊技場を指すと同時に貴族によるサークルをも意味し、その空間をカジノと呼ぶ例もある。Padoan Urban, L., *Le Compagnie della Calza: edonismo e cultura al servizio della politica*, in Quaderni Veneti, Ravenna, 1987, p.126.; Zucchetto, E., *Antichi ridotti veneziani: arte e società dal cinquecento al settecento*, Roma, 1988, pp.10-13.
- ³⁹⁾ Povoledo, E., *I comici professionisti e la commedia dell'arte, caratteri, tecniche, fortuna*, in Storia della Cultura Veneta, vol.4/I, Vicenza, 1983, pp.381-389.; Padoan, G., *op.cit.*
- ⁴⁰⁾ F.イエイツはエリザベス朝の劇場が古代劇場の再現の試みのひとつであったと主張しているが、その説の問題点も多く指摘されている。Yates, F.A., *op.cit.*; 玉泉八州男, 前掲書, pp.105-173.を参照。

(2007年 5 月 10 日原稿受理, 2007年 8 月 16 日採用決定)